

ソーシャル・マネジメントの確立と社会的影響

平成 25 年 4 月 26 日受付

大 室 悦 賀*

内容目次

1. 研究の背景
 - (1) 行政システムの限界
 - (2) 民間主導の社会的課題の解決手法の台頭
 - (3) 新しい社会の管理システムの必要性
2. 本研究の目的
3. 平成 24 年度の具体的な取り組み
 - (1) 研究会の開催
 - (2) 研究調査
 - (3) アンケート調査
4. 各研究会報告事項
 - (1) 研究会実施事項報告（調査，インタビュー，フィールドワークも含む）
 - (2) その他の調査，インタビュー，フィールドワーク
5. 各成果事項
 - (1) 研究会について
 - (2) アンケートについて
 - (3) 平成 24 年度 研究結果
 - a), ソーシャル・マネジメントの体系化「ステイクホルダーからの考察」
 - (4) 平成 25 年度 展望
 - a), ソーシャル・マネジメントの体系化「企業と社会の課題から議論」

キーワード：企業，行政，NPO，マルチステイクホルダー，社会的課題

1. 研究の背景

(1) 行政システムの限界

現代社会は市場経済の浸透とともに，社会的課題が多様化している。しかし行政システムは画一的

* 京都産業大学経営学部

あるいは中間層に配慮したサービス体系を維持している。また、行政システムは市場社会の中で噴出する社会的課題への対応は、零れ落ちるものを救うのみで根本的な解決手法をもたない。このように従来からの行政システムを中心とした社会システムでは現代社会に対応出来なくなっている。

(2) 民間主導の社会的課題の解決手法の台頭

近年ではNPO(nonprofit organization：非営利組織)やソーシャル・ベンチャー(社会的課題の解決を目的とした株式会社)の台頭、企業の社会的責任の浸透は民間をベースとした社会的課題の解決の可能性を飛躍的に向上させている。

(3) 新しい社会の管理システムの必要性

しかしながら、民間をベースとした社会的課題の解決も、行政の不理解や規制、行政のマネジメントスタイルの変化できない体質など、十分に機能しているは言えない状況がある。このような中で市場を中心とした新たな社会の管理システムが求められている。

2. 本研究の目的

本研究の目的は、行政のシステムを中心とした社会の管理から市場システム、特に「企業と社会」論をベースとした社会の管理システムを「ソーシャル・マネジメント」論として確立させ、その有効性を明らかにする、ことである。

3. 平成 24 年度の具体的な取り組み

(1) 研究会の開催

①クローズ研究会 8回

学内研究員および学外研究員による研究会を開催。それぞれの研究テーマごとに報告。

②オープン研究会 9回

各回2名の外部の研究者等を招き、ソーシャル・マネジメントにかかわる議論を進める。企業経営者および管理職を招き、企業のソーシャル・マネジメントの現状をインタビュー調査する。

③共同研究会 1回

北海道大学 経済学部との共同研究会を開催した。

研究会名「京都産業大学・北海道大学共同研究会」

(2) 研究調査

現場の調査、インタビュー、フィールドワークで調査を実施。研究会と同時に行う。

(3) アンケート調査

公共を担う行政・都道府県と市町村へのアンケート調査(995件)

アンケート名「新しい公共における自治体マネジメントの基礎的調査」

4. 各研究会報告事項

(1) 研究会実施事項報告(調査, インタビュー, フィールドワークも含む)

計 13 回実施(内クローズド研究会は 8 回・オープン研究会は 9 回・北海道大学との共同研究会1回)

第 1 回	2012 年 4 月 25 日(水) 13:00~15:00 5号館コミュニケーションルーム 2
出席	大木教授/大室准教授/在間教授/佐々木教授 真野(客員研究員)/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	研究会メンバーのみで, 今後の研究会のスケジュールを調査
結果	今後の研究会講演者のリストアップ化を行った。予定では, 愛知学院大学教授田尾雅夫氏他 14 名がピックアップされた。また, ソーシャル・マネジメントを研究していくにあたり, 参考図書のキーワードを抽出することとなった。
実績	【研究会で取り上げられたキーワード】 <ul style="list-style-type: none"> • 大学生の興味 • 事例やショートケース(国内・外) • 学術的な研究とキーワード化 • 税や歴史 • 将来への展望 • 社会との関連性相関図など • 社会に与える影響やインパクト

第 2 回	2012 年 5 月 30 日(水) 14:00~17:00 5号館コミュニケーションルーム 2
出席	大木教授/大室准教授/在間教授/佐々木教授 真野(客員研究員)/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	研究会メンバーと講演者 2 名とで, ソーシャル・マネジメント研究を議論する。
講演講師	①田尾雅夫 氏 愛知学院大学教授 題目: 公共経営の理論~考え方と批判的視点 ②後呂琢穂 氏 株式会社ワーコールホールディングス IR・広報 CSR 担当課長
結果	キーワードを議論することにより, ソーシャル・マネジメントの体系化が図れた。
実績	【研究実績】 講演者とソーシャル・マネジメントを議論した。ソーシャル・マネジメント論を確立し, 理論的枠組みと体系化の試みを行い, 有効性を明らかにしていきます。学外研究者と企業の立場から実務者を招き, 学術と企業の両面からアプローチする「企業と社会」論の議論する研究会ができた。 企業と社会, 企業とステイクホルダーとの相互関係をベースにしながら, 研究した。

第3回	2012年6月27日(水) 14:00~19:00 5号館コミュニケーションルーム2
出席	大室准教授/在間教授/佐々木教授/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	研究会メンバーと講演者2名とで、ソーシャル・マネジメント研究を議論する。
講演講師	①金井一頼氏 大阪商業大学 大学院 教授 題目:企業の社会戦略 ②岩田 肇氏 アクサジャパンホールディング株式会社
結果	企業が社会的事業をマネジメントするには、どのような取り組みをしているのかを議論した。企業の戦略についての議論に及んだ。
実績	<p>【研究会実績】</p> <p>●第一部 研究会メンバーのみで議論 14:00~15:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の予定提案 ・研究内容の議論と整理 <p>内容)前回議事録から具体的なインデックを明確化し、キーワードについての議論を行った。また、今後の予定をメンバーと調整した。</p> <p>●第二部 招待研究者との議論 15:00~17:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金井一頼氏 大阪商業大学 大学院 教授 題目:「社会的企業概念の提唱と実現の試み」 ・岩田 肇氏 アクサジャパンホールディング株式会社 題目:AXAグループおよびアクサ生命のコーポレートレスポンスビリティの取り組み <p>内容)社会性というキーワードから、研究会メンバーと金井先生、アクサ生命岩田氏との事業活動の新しいアイデアと事業において何が必要であるか、マネジメントの視点から議論をした。</p>

第4回	2012年7月18日(水) 16:00~19:00 5号館コミュニケーションルーム2
出席	大木教授/大室准教授/佐々木教授 真野(客員研究員)/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	研究会メンバーと講演者2名とで、ソーシャル・マネジメント研究を議論する。
講演講師	佐々木正顕氏 積水ハウス株式会社 環境推進部
結果	企業が社会的事業をマネジメントするには、どのような取り組みをしているのかを議論した。その際の企業の内部のステイクホルダーの重要性を議論した
実績	<p>【研究会実績】</p> <p>●第一部 研究会メンバーでの議論 16:50~ 教授会・学科会議が長引き、メンバーでの議論開始が16:50~となり、日程調整だけとなった。 9月開催の第5回ソーシャル・マネジメント研究会は北海道大学との共同研究会となった。共同研究会発表者の調整も行った。</p> <p>●第二部 招待研究者との議論 17:00~19:00 積水ハウス株式会社 環境推進部 部長 佐々木正顕氏による「題目：積水ハウスの取り組みについて」を講演いただいた。その後、研究会メンバーと積水ハウス株式会社のソーシャルな部分について質疑応答、質疑から議論へ発展した。 内容) 社会的課題を解決することを積水ハウス自体のビジネスに取り込んでいる。実際に住宅緑化の計画による環境への配慮をすることで販売戸数が増加し、環境に配慮し適した木材を調達するガイドラインを作成することで、積水ハウスに木材を卸す木材メーカーのマネジメント力も向上した事実があった。本研究会の議論で明らかになったことは、積水ハウスの社会的課題解決のビジネスは、社内社員を説得しコミットメントしていくステップが、ビジネスの確立につながっていた。このことから、マネジメントは、社員というステイクホルダーとの関係性でもあると考えられた。</p>

第5回	2012年8月8日(水) 15:00~17:00 5号館ミーティングルーム2
出席	大室准教授/在間教授/佐々木教授/柴教授 真野(客員研究員)/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	研究会メンバーで、ソーシャル・マネジメント研究をインデックス化する議論をした。
結果	キーワードのまとめとインデックス化を議論した。
実績	<p>【研究会実績】</p> <p>企業社会の定義・企業とステイクホルダー・従業員・顧客・株主・金融機関・地域・NPO・行政・ネットワーク・企業の存続条件・ビジネススタイル・ソーシャルビジネス・新しい企業社会</p>

第6回	2012年9月4日(火) 10:00~17:00 北海道大学経済学部 3階会議室
出席	大室准教授/佐々木教授/柴教授 真野(客員研究員)/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	京都産業大学・北海道大学共同研究会を開催し、ソーシャル・マネジメントを議論する。
結果	小島廣光(札幌学院大学)・平本健太(北海道大学)「戦略的協働の本質」/深山誠也(北海道大学大学院・経済学研究科・博士後期課程)「社会福祉法人の戦略と組織 — 高齢者介護組織を対象とする実証研究」/谷口勇仁(北海道大学)「企業事故の発生メカニズム — 殺菌神話ともったいないパラダイム — 」/北海道大学の研究が「マネジメントと手続き」研究について、議論した。
実績	【研究会実績】 10:05~10:50 第1報告:小島廣光(札幌学院大学)・平本健太(北海道大学) 「戦略的協働の本質」 11:00~11:45 第2報告:大室悦賀(京都産業大学)「Social Business in JAPAN」 12:55~13:40 第3報告:深山誠也(北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程) 「社会福祉法人の戦略と組織 — 高齢者介護組織を対象とする実証研究」 13:45~14:30 第4報告:真野 毅(豊岡市 副市長)「兵庫県豊岡市の協働」 14:35~15:20 第5報告:谷口勇仁(北海道大学) 「企業事故の発生メカニズム — 殺菌神話ともったいないパラダイム — 」 15:25~16:10 第6報告:佐々木利廣(京都産業大学) 「マルチセクター・リサイクルシステムの生成と移転」

第7回	2012年10月24日(水) 14:00~18:00 517教室 5号館 コミュニケーションルーム2
出席	大木教授/大室准教授/在間教授/佐々木教授 真野(客員研究員)/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	京都産業大学で学生への公開研究会を開催し、行政のソーシャル・マネジメントを議論する。
講師	真野 毅氏 豊岡市 副市長(本研究会 客員研究員)
結果	豊岡市の現状と行政のステイクホルダーがどのような取り組みをしているか、実際の現場から議論することができた。
実績	【研究会実績】 「兵庫県豊岡市の協働」についての現状のヒアリング調査と議論ができた。

第8回	2012年11月9日(金) 16:30~18:00 5号館 コミュニケーションルーム2
出席	大木教授/大室准教授/佐々木教授/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	ソーシャル・マネジメントを提起した藤江俊彦教授と議論する。
講師	藤江俊彦 千葉商科大学大学院教授
結果	藤江教授の「ソーシャル・マネジメント」を講演してもらう。本研究会を実施することで、ソーシャル・マネジメントに対する多様な意見と見解を議論することが可能になり、各研究員の研究領域から分析、評論することが可能となる。また、本論議により明確化できた。
実績	【研究会実績】 様々な観点から、社会的企業がどのような収益等を出し、貨幣と価値を結び付けているかの議論と難しい価値の問題まで議論をした。本議論が、ソーシャル・マネジメントは、企業・NPO とすべての組織に共通するものであった。

第9回	2012年11月15日(木) 13:00~16:00 514教室 5号館ミーティングルーム2
出席	大木教授/大室准教授/在間教授/佐々木教授/堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	行政の立場からソーシャル・マネジメントを実践した現場について議論する。
講師	岸川政之 多気町役場 多気町観光協会事務局 まごの店
結果	【研究会実績】
実績	<p>●第一部 13:00~14:45 第9回ソーシャル・マネジメント研究会 特別公開議論 題目: 多様な主体が携わるマネジメントについて 講演者: 多気町役場多気町観光協会事務局 岸川政之 氏</p> <p>●内容: 公開研究会となり、公共経営概論を履修している学生50名参加した。岸川さんの講演に対して、研究会メンバーと学生から質問をし、多様な主体が携わるマネジメントにおいて重要な要因は「人間関係」と「自分の夢と覚悟」であると話になった。</p> <p>●第二部 15:00~16:00 第2部 講演内容についての議論 第一部の議論を元に、研究会メンバーと議論をおこなった。多気町役場が展開した「まごの店(高校生レストラン)が出来上がるまでのプロセスにおいて、誰がどのように関わり、携わってきたか明確にし、事業性と収益性の議論をし、加えて高校生レストランにおいて事業主は誰であり、どのような効果があったのかの議論に及んだ。</p> <p>【実績】 この議論から、高校生レストランの取り組みが行政としての雇用促進の事業が推進したこと、高校としては就業の効果が促進されたこと、町や農家としては農産物の流通の確保や商業の発展などが挙げられた。多気町の活気とソーシャルビジネスやコミュニティビジネスとして成功したことは、ステイクホルダーの説得や理解を得ることがマネジメントにつながると議論された。 当研究会のマネジメントと多様なステイクホルダーの関係性が重要であるという議論に発展した研究会となった。</p>

第10回	2012年12月5日(金) 10:30~12:00 5号館 コミュニケーションルーム2
出席	大木教授/大室准教授/在間教授/佐々木教授/篠原教授 堀野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	研究会メンバーで、ソーシャル・マネジメントのキーワードの再検討を行う。
結果	第9回までの研究会の実績から、最初に提起したキーワードの再検討を議論した。
実績	<p>この回より、篠原教授も参加、篠原教授の研究専門分野がソーシャル・マネジメント研究に欠かせないと判断した。篠原教授も了承していただいた。</p> <p>【研究会実績】</p> <p>企業社会の定義【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 企業の中の社会 • 社会の中に埋め込まれている企業 • 理想とする企業社会 • 企業社会を分析する視点, 複数の視点 • 企業社会がイノベーションをしていくステイクホルダー • 企業社会のこれから「行政中心から企業社会へ」 • 社会に与える影響の存在 • 今までのステイクホルダー <p>企業活動を学ぼう【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 企業とステイクホルダー • 企業活動とはなにか? 取引先とはなにか? • ビジネスに必要なステイクホルダー • 具体的なビジネス • 企業活動 • 企業とステイクホルダーの関わり • 企業と企業に必要なステイクホルダーの列挙 <p>企業と従業員【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人間関係 • 企業内人間関係 • 従業員のキャリアアップの幸福 • ヒューマンリソースマネジメント • 従業員のガバナンス • 従来の日本企業のあり方から, 個人株主への変化 • 時代の変化, 変遷 • 働き方への配慮, メンタルヘルスなどの福利厚生 of 充実 <p>企業と消費者(企業と顧客)【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステイクホルダーの一つとして説明 • 企業と顧客の関係性 • サプライヤー • グリーンコンシューマー • 寄付型, 調達方法 <p>企業と株主・金融機関【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ガバナンス • 株主や投資家なども含む • 歴史と変遷, 変化について • 社会的投資の事業 • SRI について <p>企業と地域・NPO【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域活動 • 市民と住民, 市民活動 • 歴史的な変遷が必要, 企業が成り立つ時点から, 地域とNPOの関係 • 歴史的な変遷と代表者で「変化」を執筆する。 • 企業とNPOのコラボレーション <p>企業と行政【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行政が変わったことで, 企業がかかわったことを中心にする • 行政の制度が変わることによって, 企業がかかわったこと • 国の政策と企業活動 • 環境系の話

企業社会の複雑性【キーワード】

- 企業社会というネットワーク
- 関係性を維持, 発展させる企業のソトガワ
- スタートアップ時の小さな企業の軌跡(例)
- ガバナンス
- 内側の問題
- インセンティブなどの問題
- マルチステイクホルダー
- 新しい動き, フューチャーセンター

企業に対する新たな評価指標【キーワード】

- 企業の成長過程, 変遷
- 業績
- 企業と社会活動
- 存在条件の説明
- 財務
- CSR も含む
- 新しい動き, フューチャーセンター

コーポレントガバナンスの新潮流【キーワード】

- 海外も含めたビジネススタイル
- アングロサクソン
- 三方よしや京都スタイル
- 京都の価値や伝統を守っている企業
- 社会の変遷とビジネススタイルの変遷
- 文化や時代
- CSR

ソーシャル・ビジネス【キーワード】

- 企業の社会的課題と企業
- 社会的課題に対してビジネスの手法で事業展開する実例など

ソーシャル・マーケティング【キーワード】

- ソーシャルプロダクトについて
- 社会的価値とマーケティング
- 時代による社会性の変化

新しい企業社会【キーワード】

- 新しい企業社会
- いくつかの視点で企業を考える
- ステイクホルダーの関係性を個別に似たものをふまえ, 企業社会のこれからを考察する。
- 社会的な課題と企業, その企業活動の新しいやり方
- ソーシャル・マネジメント学科の特色とこれからの話
- 理想とする企業社会か, 企業社会と視点の話
- 企業社会中心の世界と, これからの在り方

第11回	2013年2月1日(金) 16:00~19:00
出席	大木教授/大室准教授/佐々木教授/柴教授/篠原教授/ 堀野(客員研究員)/真野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	豊岡市行政とまちづくりを担う地域住民・企業との議論と現地調査・フィールドワーク
講師	有限会社 山本屋 代表取締役 高宮浩之/行政 豊岡市 副市長 真野 毅
結果	●第11回 ソーシャル・マネジメント研究会 16:00~18:30
実績	<p> 題目: 奇跡の温泉街~ゆかたの似合うまち~ 兵庫県城崎温泉</p> <p> 講演者: 有限会社山本屋 代表取締役 高宮浩之</p> <p> 会場: 城崎文芸館 兵庫県豊岡市城崎町湯島 357-1</p> <p>【実績】</p> <p>城崎温泉のまちづくりとそれを担う人の関係性や組織の構成についてお話しいただく。それに対して、真野氏より豊岡市との共同事業や関係性を議論してもらい、両氏に対して研究会で質疑応答を行った。積極的に行政へと関与する城崎の取り組みは、多様な主体が携わるマネジメント研究において、マネジメントの主体性を考察できる内容となった。また、打ち合わせにおいて、今後の研究内容を議論し、メンバーのそれぞれの専門性から研究を深める議論をした。</p>

第12回	2013年2月2日(土) 9:00~15:00
出席	大木教授/大室准教授/佐々木教授/柴教授/篠原教授/ 堀野(客員研究員)/真野(客員研究員)/榮(嘱託職員)
内容	豊岡市行政とまちづくりを担う地域住民・企業との議論と現地調査・フィールドワーク
講師	豊岡市 副市長 真野 毅/NPO 法人但馬國出石観光協会 加藤 勉
結果	●第12回 ソーシャル・マネジメント研究会
実績	<p>第一部 9:00~10:00 コウノトリと共に生きる~豊岡の挑戦~</p> <p>内容: 兵庫県立コウノトリの郷公園が行う環境に対する取り組みと行政の施策などを真野毅氏と議論し、現在の豊岡市のマネジメントの大まかな概要を研究・議論した。</p> <p>第二部 10:30~14:00 “出石のどん底からのはい上がり” 但馬の小京都「出石」視察研修会 講演者: NPO 法人但馬國出石観光協会 加藤 勉</p> <p>内容: 出石の歴史と変遷を受講した。JR 駅が設置されず出石は昔の風光を残したこと、近くに城崎温泉という観光宿街があること、などが観光地として成立した要因であると講演。町と町、町と市という関係性を議論することができた。また、出石のまちづくりの担い手の教育・育成問題も挙げられた。</p> <p>【実績】</p> <p>ソーシャル・マネジメント研究会において、町と町の連携、市との関係性、それを担う人々のマネジメントの研究に大いに役立つ講演となった。加えて、出石の関連商業の事業主にもお会いし、出石と豊岡市の現状をステイクホルダーの意見としてヒアリングすることもできた。本研究会を通して、豊岡市全体、豊岡市にある町、まちづくりの担い手(ステイクホルダー)、行政とステイクホルダーの関係性、それをマネジメントしてきた事例、様々なことが現地調査できた。</p>

第13回	2013年3月2日(土) 15:00~17:00
出席	大室准教授/在間教授/佐々木教授/篠原教授/森藤/榮(嘱託職員)
内容	本年度の研究のまとめとソーシャル・マネジメントの体系化を議論
結果	これまでの研究会の実績から、キーワード再検討し、「ソーシャル・マネジメント」の体系化と理論構築には「ステイクホルダー」と「社会課題」「企業の経営課題」などから研究するアプローチが必要であると議論した。来年度の研究のテーマは「企業と社会の課題」とし、ソーシャル・マネジメントの理論の確立を目指す。第13回研究会より、森藤ちひろ氏も参加していただいた。
実績	<p>【研究会実績】</p> <p>ソーシャル・マネジメントを「課題」とし、課題について議論をしたキーワードを記す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業・行政・民間が他セクターとコラボレーションして解決に取り組む課題 2. 社会的課題・経営課題, 障害者・男女問題, 不祥事, 地域活性化など課題の明確化 3. 課題とはどのようなレベルであるかを明確化する ミクロ: 労働/雇用・非正規・内部告発・リスク・不祥事 メゾ: 障害者・過疎, 6次産業, 地域の産業の活性化(農業) マクロ: フェアトレード, 環境, 格差, 貧困, エシカルトレード, フェアトレード, ホームレス 4. 誰が解決に向けたアプローチをしているのか明確にする 政府・企業・NPO

(2) その他の調査, インタビュー, フィールドワーク

①平成24年5月26・27日

宮崎県川南町町長日高明彦氏から現在の川南町についてヒアリングする。九州フォーラムを主宰する一般社団法人 SINKa の事業についてヒアリングを行う。

②平成24年6月15・16日

アクサジャパンホールディング株式会社のCSRおよび企業が社会とどのようにかかわっていくのかをインタビュー調査した。

③平成24年8月27・28日

東洋ゼンマイ株式会社の水力発電機械のビジネスモデルの調査および館山市役所の方と意見交換をおこない、市場を活用したまちづくりについて調査を行った。

④平成25年3月18日

(株)コミュニティタクシー 行政にも一般の企業にも手のどかないニーズに対応するコミュニティタクシー事業を現場調査した。

⑤平成25年3月19・20・21・22・23日

くまもとソーシャルビジネスネットワークにおいて現地調査, 熊本県行政のソーシャル・ビジネスを担当者と議論, ソーシャル・ビジネスの支援を展開する(社)SINKaにおいて多様なステイ

クホルダーが展開する事業の事例を現地調査、(株)フラウにおいて、マネジメントを実際に行っている担当者から現在の実態を調査、中村ブレイス(株)の事業展開から企業としてのソーシャル・マネジメントの研究を現地調査、(株)石見銀山生活文化研究所において、地域住民ステイホルダーとマネジメントする事業を現地調査、島根県行政のソーシャル・マネジメントを議論した。熊本県庁と島根県庁のソーシャル・マネジメントを比較調査できた。

5. 各成果事項

(1) 研究会について

13回の研究会を実施、内クローズド研究会は8回・オープン研究会は9回・北海道大学との共同研究会1回を開催した。研究会メンバーでソーシャル・マネジメントを議論しながら体系化し、他機関・他大学の研究者とソーシャル・マネジメントについて議論をすることで理論の確立に目途がたった。

また、企業が取り組む「ソーシャル・マネジメント」について、インタビューと現地調査を行い、ソーシャル・マネジメントの有用性と展望を議論することができた。これらを実施することで、企業と社会、企業と行政がどのような関係性であるかの調査研究、議論が進んだ。

(2) アンケートについて

全国の都道府県・市町村の行政機関を対象に、行政のソーシャル・マネジメントの実態を質問紙調査した。実施した。344件回収、回収率42%であった。なお、分析は平成25年度で行い、結果をソーシャル・マネジメント研究の考察とする。

①調査名：「新しい公共における自治体マネジメントの基礎的調査」

②調査期間：平成25年2月末より3月13日

③調査対象：全国の自治体(47都道府県、及び各県下の市区948) 内データ有効数819件

④回収：344件 回収率42% (平成25年3月13日時点)

⑤【方法】

全国の都道府県と市町村・区(東京都)の行政において行政経営関係の担当者と市民協働関係の担当者に対して回答を求めた。

質問項目は、新しい公共においてマネジメントの現状を調査できるものを作成した。例：「自治体経営における行政の役割のうち下記の内容はどの程度重要と考えますか？」などの112項目を質問した。

⑥【結果】

自治体経営の役割の質問項目において、自治体にとって公共サービスの提供が「大変重要である・重要である」と回答した割合が94%であった。住民や企業が活動できる場の提供が「大変重要である・重要である」と回答した割合が96%となった。行政の認識するソーシャル・マネ

マネジメントのあり方は、全国どこでも同じような考え方になり、一定の傾向があるように考察できる。

また、ソーシャル・マネジメントを実行するための具体的な取り組み対象を「住民・企業・NPO」と比較して質問調査した。結果、住民に対して行っているものは「協議会あるいは諮問会議」が一番行われており、フューチャーセンターの開設とスタディツアーは行われていないことが分かった。企業に関しては、取り組み自体があまり行われていないと回答しており、各取り組みの「あまり行っていない・行っていない」と回答している割合が74%となった。NPOに関して、協議会あるいは諮問会議に加えて「セミナー」を具体的な取り組みとして行っていた。

以上の様なアンケート結果に加えて詳細な統計分析は来年度に行い、ソーシャル・マネジメントの理論確立の考察とする。

(3)平成 24 年度 研究結果

a), ソーシャル・マネジメントの体系化「ステイクホルダーからの考察」

研究会では、ソーシャル・マネジメントに必要で重要なキーワードが「ステイクホルダーと企業の課題」であると議論された。企業の活動とステイクホルダーを丁寧に理論化することで、「ソーシャル・マネジメント」理論の基盤となるキーワードが出来上がった。また、キーワードは、企業と社会論としても確立した。結果、キーワードは12個とし理論の基盤を得た。以下に12個のキーワードを列挙する。

1. 企業活動
 - 企業と企業に必要なステイクホルダーの列挙, 個別の関係の変化
2. 企業と従業員
 - 従来の日本企業のあり方から, 個人株主への変化
3. 企業と消費者
 - ステイクホルダーの一つとして説明 • 企業と顧客の関係性
4. 企業と株主
 - 金融機関 • 社会的投資の事業 • 歴史と変遷, 変化について
5. 企業と地域
 - NPO • 地域活動 • 企業とNPOのコラボレーション
6. 企業と行政
 - 行政が変わったことで, 企業がか変わったことを中心にする
7. 企業社会の複雑性
 - 企業社会というネットワーク • 関係性を維持, 発展させる企業のソトガワ
8. 企業に対する新たな評価指標
 - 企業の成長過程, 変遷 • CSR も含む

9. コーポレートガバナンスの新潮流
 - 海外も含めたビジネススタイル
 - 文化や時代
 - CSR
10. ソーシャル・ビジネス
 - 企業の社会的課題
 - 社会的課題をビジネスの手法で事業展開する実例
11. ソーシャル・マーケティング
 - 社会的価値とマーケティング
 - 時代による社会性の変化
12. 新しい企業社会
 - ステイクホルダーの関係性をふまえ、企業社会のこれからを考察する。

(4) 平成 25 年度 展望

a), ソーシャル・マネジメントの体系化「企業と社会の課題から議論」

研究会において企業へのインタビューと行政のマネジメント調査で得た研究結果から、行政のシステムを中心とした社会の管理から市場システムを明らかにできた。そして、ソーシャル・マネジメントのキーワードをステイクホルダーの研究視点から確立した。その際の展望として、社会的課題から考えるソーシャル・マネジメントの議論をしていく必要性も見出された。本研究結果を発展し、社会的課題の視点からソーシャル・マネジメントを研究する。これにより「企業と社会」論をベースとした社会の管理システムを「ソーシャル・マネジメント」論として確立させ、その有効性を明らかにする。以下に、現段階での「企業と社会の課題」のキーワードを列挙する。

1. 課題に対して、企業・行政・民間がコラボレーションして解決に取り組む
2. 社会的課題・経営課題、障害者・男女問題、不祥事、地域活性化などを課題と考える
3. 課題とはどのようなレベルかを明確にする
 - ミクロ：労働／雇用・非正規・内部告発・リスク・不祥事
 - メゾ：障害者・過疎、6次産業、地域の産業の活性化(農業)
 - マクロ：フェアトレード、環境、格差、貧困、エシカルトレード、フェアトレード、ホームレス
4. 誰が解決に向けたアプローチをしているのか
 - 政府・企業・NPO

The Establishment of social management

Nobuyoshi OHMURO

A table of contents

1. Introduction

- (1) Limit of the administrative system.
- (2) Rise of method to solve social issues led by the private sector.
- (3) Need for a management system.

2. Purpose of research.

3. Specific efforts of fiscal year 2012

- (1) Study Group.
- (2) Research survey.
- (3) Questionnaire survey.

4. Each Study Group report matters

- (1) Reported of Study Group. (Surveys, interviews, field work including)
- (2) Other Surveys, interviews, field work.

5. Results matter.

- (1) Results of Study Group.
- (2) Results of Questionnaire survey.
- (3) Research results of 2012
 - a), System of social management “Consideration from stakeholders”.
- (4) Application to 2013
 - a), System of social management “Discussion of social issues and corporate”.

Keywords : Company, Administrative, NPO, Multi-stakeholder, Social issues